

## 令和6年度 第2回社会教育委員会会議録

日 時 令和6年11月21日（木）10時00分から12時15分

場 所 市役所5階小会議室

委 員 委 員 長	松尾 弥生
副委員長	高瀬 由美
委 員	田中 亨胤
委 員	谷勝 公代
委 員	村上 尚美
委 員	中村 和子
委 員	河合 新一
委 員	難波 利克
委 員	橋尾 恵美
事務局 教 育 長	菅野 恭介
教育部長	伊藤 勝
学校教育課 課長	小坂 卓司
総合教育センター 所長	三村 尚彦
生涯学習課 課長	北島 悦乃
生涯学習課 課長補佐	増田 浩和
生涯学習課 職員	藤井 優佳

### 1. 開会（事務局）

### 2. 教育長あいさつ（教育長）

～教育長よりあいさつ～

### 3. 社会教育委員長あいさつ（委員長）

皆さん、こんにちは。本日はありがとうございます。

先月から公民館まつりが開催されております。私も各公民館に伺いまして、今年度の状況を見させていただきましたが、たくさんの方にご来場いただいております。公民館まつりは、公民館で学ばれる方だけのものではありません。公民館は生涯学習の拠点であり、地域の拠点ですので、たくさんの方に利用していただきたいです。

それをPRする場でもあります。

今年度はたくさんの中学生在が協力してくださっています。話を聞くとところによると、昨年度手伝った中学生が今年度も進んで手伝いに来てくださったそうです。

善防公民館では、来年度が創立30周年ですので30周年前年祭を開催されたのですが、地縁団体や地域の方々と実行委員会形式でどのような公民館、公民館まつりにしていけばいいかを5月頃から打ち合わせされてきたと聞いております。来年度の30周年も盛大に盛り上げようという話になっているようですので、是非とも叶えたいなと思っております。

南部公民館では、出入り口で人数カウントをしていた中学生に話を聞くと来場者数が391人ということでした。チラシの全戸配布が出来ないという問題もあって来場者数が減ってきたところではあったのですが、そんななかで地域学習に来ている小学生に公民館まつりをするので来てねと声掛けをされたとも聞いています。

北部公民館では、公民館登録グループの方々は高齢になっており、階段を上る時にしんどかったりしますので、中学生が手を添えたり水道補給の声掛けをしたり、見えないところでのサポートも一生懸命してくださいました。

11月末には中央公民館まつりがあります。是非とも皆さんお出かけいただきたいと思います。また、この場をお借りしまして、ご尽力いただいている公民館職員の皆様にお礼を申し上げたいと思います。

さて、本日は以前より願っておりましたコミュニティ・スクールと部活動の地域移行のお話をさせていただく日がやって参りました。私たち社会教育委員は県で様々な研修会を受けるのですが、ここ数年、中心の話題はコミュニティ・スクールと部活動の地域移行の事です。来週も研修会があり、分科会が3つあるのですが、内容はすべてコミュニティ・スクールです。やはり、それだけ皆さんの関心が高い内容なのだと思います。今日はこの2つについて、加西市がどのように取り組まれているのかというところを学んでいきたいと思います。よろしくお願いいたします。

#### 4. 協議事項（事務局）

##### （1）部活動の地域移行について

～学校教育課長より説明～

○委員D

質問をさせていただきたいのですが、加西市の場合はあり方検討委員会をされているのかということと、それに付随して、今お聞きしたご意見は教育委員会のものだと思うのですが、保護者、教職員、児童・生徒のアンケートはとられているのかということ、この2点をお答えいただけますでしょうか。

○学校教育課長

部活動のあり方検討委員会は以前より実施しているのですが、部活動の地域移行は学校の再編に合わせてという考えがありましたので、あり方検討委員会はまだ実施しておりません。

アンケートについては、教職員に向けては3～4年前に行っており、兼職兼業となる場合、どれぐらいのことが可能かという意向を調査しました。保護者や子ども

たちに向けてのアンケートはまだ実施しておりません。

○委員 D

加東市の教員のアンケートを見ると7割がやりたくない、残りの3割は条件が合えば自分が指導者として入ってもいいと答えているのです。おそらくですが、若い先生はやりたくない人が多いのではないかなと思っていて、ここら辺がネックになると思っています。

保護者は、子どもに本当にスポーツをしてほしい場合、広域になった方が嬉しいという意見を聞いたことがあります。卓球は部活動でやって、野球はシニアチームでやる子も結構いるのですよ。部活動の地域移行に功罪の面があるのは、教員や教育委員会のレベルだけで考えていたらだめだと思います。保護者や子どもたちはどう考えているのかというアンケートは確実に必要なのではないかと思います。

地域移行を推進してほしいと言っているわけではないのですが、慎重に進めるとおっしゃっているのは、他市町で上手くいった方法を取ろうとしておられるのか、部活動の地域移行をしないと考えておられるのか、どちらなのでしょう。

ともかく、あり方検討委員会を早く立ち上げた方がいいのではないかと思います。あり方検討委員会があれば、いろいろな情報が入ってくると思いますし、アンケートをとって、それをもとに方向性が決まってくるだろうと思います。

○学校教育課長

部活動の地域移行はもちろん行うのですが、他市町のあり方検討会の様子を聞かせてもらおうと、皆が思っていることを言われるばかりで方向性がなかなか決まらない、余計に混乱するということも聞いております。本当に相応しい形のあり方委員会をするために下準備がいるのではないかと考えているところです。

○委員 D

国がやると言っているからには予算はついてくると思います。

私たちの世代の先生はすごく部活動に熱心でした。生徒指導の効果が大変高いというのもよくわかります。ですが、生徒も変わってきていますし、先生も変わってきています。なぜ時間外にボランティアで部活動の指導をしないといけないのかというのは先生方の本音だと思います。

○委員 C

国の最終目標は学校と部活動を切り離すということで決まっているのでしょうか。

○学校教育課長

そうですね。方針としては、ゆくゆくはそうなると思います。

○委員 C

それは試行しながら途中で変わるということはないのでしょうか。

○学校教育課長

今のところはそのようなことはないと言っていますが、まだわからないです。

○委員 C

自分が部活動を体験してきて、部活動の仲間とは大人になっても繋がっています。豊かに過ごせているのは、部活動によるものが大きいのかなとも思うのです。もし、部活動が民間に移行されたり、学校から切り離されたりした場合、そういう人間関

係が同じように保てるのかなと思っていました。国の最終目標は切り離しとのことですが、地域連携型でしか生き残っていけないと思っていたので個人的には残念だなと思っています。ですが、そこは逆らえないので、アンケートの話も同時進行しながら、なるべく早めに実験をしてもらいたいですね。子ども達を中心に考えて、子ども達が豊かで幸せな学校生活を送れるかどうかという軸が揺らがなければ、うまく調整をつけていけるのかなと思います。

#### ○委員 D

部活動は生徒指導ですよ。ですが、地域から社会人コーチが入ると勝利至上主義になるのです。それで、落ちていく子どもも出てきますので、外部コーチは難しいところがあります。

また、私の立場から言わせていただくと、部活動は性被害の巣なのです。その時は声を上げられないけれど、誰か特定されないネット上で実は部活動のときにといいこと多くあるのです。学校の先生でもそのようなことがあるので、一般の人が入ってきたときにどうなるのかという心配もあります。

#### ○委員 A

学校の機能はスリム化する方向で国は動いています。それは部活動を一生懸命やっていた人ではなく、受験を目指して官僚になった人たちが設計していることが多いので、彼らがどこまで現実を理解して制度設計をしているのかは疑問に思います。

ですが、流れがそうなっているので、賢く対応する必要があると思います。まず、加西市の4つの校区は絶対的なものかどうかです。校区は文化的な考えで、法律では校区というものはないですよ。制度を緩やかにしておかないと、部活をたくさん作っても、人数が集まらないということもあると思います。なので、加西市の中学校区の撤廃を考えることも一つ大きなことになるかなと思います。

加西市なので公立を前提にしている話だと思いますが、私立の場合は部活動が売りになったりしますよね。公立の場合は、部活動の売りにするというのは難しいと思いますが、都市部と農村部でも考え方は違うと思います。南淡路市の沼島では子どもが少なくて体育すら上手くいかないので、和歌山県の学校と交流をして集団的なスポーツを学習しています。そこでは部活動が成り立つ前提がないのです。これは校区の撤廃と関わって来る問題かもしれません。

野球に関しても、野球をする場所がなくなって野球をする子どもが少なくなっています。また、オリンピックは、部活動がなくなればスポーツ文化が停滞してなくなるかもしれません。さらに言うと、部活動の学校間試合もなくなるかもしれません。そういうもののあり方にも関わってくる問題かもしれません。

いま大阪の辺りではダンスが流行っていますよね。スポーツ系だけではなく、文化系のサークルも含めた部活動の地域移行を検討しないといけないと思います。先ほど、アンケートの話がありましたが保護者の思いはもっとももっと多様なのではないかなと思います。

#### ○委員 D

ダンススクールは部活動にないので、広域から人が集まってきて、すごく人気があります。平日はしっかり勉強をして、土日は自分たちがやりたいスポーツをやる

というのを目指すのもひとつかもしれないですね。

先生の頭の中には「部活動イコール生徒指導」というのが方程式のように入っていて、やめたらどうなるのだろうという不安があるのではないのかなと思うのですよね。それと同時に世代交代も起きていて、土日まで部活動で拘束されるので、先生を志望する人が減っているという大きな問題があります。やはり、そこは視点を決めて論議されたら良いと思いますが、先生の副業を許可し、指導員としての報酬を渡すのであれば、部活動の指導をしたいという先生がもう少し出てくるのではないかと思います。この部分は国が認めてお金を出すべきだと思います。

○委員長

教員採用試験は、内定を受けているのに半数の人が辞退されるという話もあります。先生のなり手がいないというのは大きいと思うのですよね。

校長先生、現場の立場からいかがでしょうか。

○委員 F

全く進んでないということではなくて、中学校長会としても連携を取りながら進めているところです。まずは地域でやってみるという思考です。ただ、先ほど議論されていた制度上のこと、システム上のこと、それから地域の理解という点については、全く答えがない状況だと思います。

先ほど、生徒指導とおっしゃられましたけれども、それだけではない効果が部活動にはあります。たとえば、世代や時間を超えた繋がりが出来るというのは皆さん十分理解されていると思います。それを全部ひっくるめて地域移行を考えるというのがなかなか難しいです。私も含めて、先生の中には自分がしたことないスポーツの指導をやっている方も多くいます。それでも子どもたちの成長を見る喜びや充実感を感じることは、教員にとって非常に大きいのです。ですから、部活動を学校から切り離すことによって、それを学べない若い世代はもったいないと感じる部分もあります。答えがなく、これから議論をしていかなければいけない部分だと思います。先生方の業務に関して見れば明らかにマイナス面もありますし、そのマイナスを補うだけの効果もありました。

また、日本の部活動はスポーツ底辺を支えていたという事実もあると思います。それがなくなるとどうなるのか。中学校だけではなく、スポーツ底辺にも大きく関わって来ると思います。社会教育の場で議論されていない部分にも影響が出てくると思います。特定の意見だけで方針を決定していく怖さもあると思います。それこそ、大多数の子が一流の選手になるわけではありませんので、そういう子どもたちの幸せを考えることが必要だと思っています。

○委員 B

学校教育課長がおっしゃっている部分がすべてだと思います。

都市部では、子どもたちが学校から帰って遊んでいた公園が撤去されて居場所がなくなっている市町もありますが、加西市は自由に使える土地や建物があります。

ただ、子どもたちの活動が広がっていますので、親御さんたちとも相談をして、これからは校区を緩和していくことを考えていただきたいと思います。

○学校教育課長

部活動を理由とする校区間の移動は認めています。申請をもらって、妥当性や安全性の確認ができれば許可をしています。

○委員 B

それは小学校と中学校どちらもでしょうか。

○学校教育課長

中学校のみです。

○委員 B

小学校も考えないといけないときが来ていると思います。加西市の場合は特に地域が広いので、親御さんの送迎が付いて回ります。そのためには公共交通も考えないといけないと思います。

学校の先生方はいろいろな問題に関わってらっしゃいます。なので、兼務するのはいいですが、ルールが持続可能かどうかやその方のご負担を考えながら決めていかないといけないと思います。

また、市としてどのような応援ができるのか、市としての方針を考えていただかないといけないと思います。

## （２）コミュニティ・スクールについて

～総合教育センター所長より説明～

○委員 A

学校運営協議会は基本的には学校単位ですよね。加西市にはいろいろな単位がありますが、加西市全体の教育行政として違っていいのか、そのあたりのバランスはどうなのでしょう。確かにボトムアップの学校運営協議会はイメージ的にはいいのですが、加西市全体として無整合になるところがあるのかなと思います。

以前、私が兵庫教育大学付属小学校の校長をしていたときは、学校評議員制度だったので、意見を聞いて、最終的には校長がいいところは取り入れて学校を運営していました。雑草をきちんと処理していないと言われたことがあったのですが、それは雑草を刈るといろいろな生き物と出会う機会がなくなってしまうのであえて残していたのです。

学校運営協議会でも好き放題言われると少し困りますよね。地域が責任をもって学校を運営していくスタートとして校区制度ができて日本の学校教育を支えてきたのですが、いまの時代、あまりに地域エゴが出てしまうのではないかという心配もあります。

○委員 D

学校運営協議会の役割のひとつに教職員の任用に意見が言えるという項目があります。これは、人権の問題にも繋がりますので、私が小野市で学校長をしていたときは学校運営協議会をやっていませんでした。

○委員長

リーフレットにもその人事に関する文言は入っています。昨日お話を聞きに行っていた多可町では、あえてその文言には触れず、なぜ協力してほしいか、何を協力してほしいかを伝えていと聞いています。また、運営委員の選出が大事ともおっしゃっていました。

○委員 B

私は学校運営協議会の運営委員として入っております。

運営委員は校長先生が推薦なさいますが、同じ職の方が入っているわけではなく、その学校ごとに選んでらっしゃいます。先生の経験者だからこそ言えることもありますし、かえって先生の職についていないものは、子どもたちや保護者の方の様子を見させていただいて、外からの目線としてマナーなどに意見を出させていただいています。

子どもの人数によって状況も違いますので、とにかく、各学校の校長先生やPTAの方の意見をしっかり聞かせていただきながら活動をさせていただいています。

○委員長

学校運営協議会がどういうものを目指しているのか、どういう立場で学校に関わっていくのかがわからないとおっしゃる方が多いです。たとえば、学校コーディネーターをおいてらっしゃるところは、コーディネーターがそのサポートを全体にわたってやってくださっています。

学校によって雰囲気も違えば地域性も違いますので、何を求めているかが学校によって違います。なので、難しいなと思うのですが、授業のサポートや夏休みのお花の水やりまで、困りごとの応援隊もコミュニティ・スクールの仕事のひとつだと思います。ただ、先生方から困りごとを聞くだけでも、時間を拘束してしまうので、なかなか直接交流を持つこと自体が負担になるのかなと思ったりもします。学校側の意見としてはいかがでしょうか。

○委員 G

西在田小学校です。本校の運営委員の方には今年はどういうことをしたいのをお願いしますという方針をお伝えしています。方針としては、小学校の統合も決まっているので、学校と地域で一緒になって西在田のいいところをたくさん伝えていきたい、地域の方との関わりを通してふるさと愛を育てていきたいというところで意見が一致しています。

運営委員の方からは、学校では勉強をして、僕らは畑や調理、細工物作りを教えるので、声をかけてもらったら仲間を集めて行くと言ってもらっています。また、学校は敷居が高く、行きたいけど行けないので、学校側から声かけてほしいというありがたい言葉をいただいています。それに甘えて、畑の世話や収穫、つるを使ったリース作り、そんなことを楽しくさせていただいています。

○委員長

学校と学校運営協議会の話し合いの場はあるのでしょうか。

○委員 G

全員が集まる会議は計画立てた決まった回数を行っているのですが、日頃から自営業の方は学校に来てくださるので、その方を通して声かけをしたり、個人個人に連絡をしたりしています。

○委員長

学校にボランティアとして関わる人に知っておいてほしいこと、こういう風になればいいなというような要望はありますか。

○委員 G

学校が頼みたい内容によると思っています。

西在田小学校では、土を触るなど昔はしていたことを一緒にしてもらっています。ただ、授業を手伝ってもらうとなると線引きがいると思います。

○委員 A

いろいろな事例を聞いていますが、持続可能な制度にならないといけないと思います。

○委員 E

私も運営委員をさせてもらっていますが、私たちができるかたちで応援しようということで、若い先生方とお話をする機会を設けています。最初は校長や教頭も一緒にやろうと思っていましたが、それだと言にくいこともあるだろうということになりました。ですので、先生が校長、教頭に言にくいこと、校長、教頭が先生方に言にくいことは私たちを通じて伝えています。たとえば、校長、教頭が先生方に土曜チャレンジ学習に来て、普段は学校では見せない子どもたちの姿を見てほしいけれど、休みの日に来てほしいと言にくいという状態のときに、私たちを通じて伝えて、今では交代で様子を見に来てくださっています。

家庭科のミシン、算数の掛け算、図工ののこぎりなどの手伝いをさせてもらったこともあります。他にも若い先生方から自転車教室をしてほしいと依頼されて教えに行ったこともありました。そういう活動をしています。

○委員 A

学校運営協議会は毒にもなるし薬にもなると思うのですが、話を聞く限り加西市はうまくやってらっしゃるのではないかと思いますね。

○委員長

加西市のそういう取り組みをまとめたものがあつたらいいなと思います。明石市などではそういうものが上手に作ってあるので。

○委員 B

学校の中ではそういうものが作ってあつたりしますね。

○副委員長

私の校区には、地域の回覧板と一緒にこんなことがありましたというような紙が入っています。学校によって違うのかもしれませんが。

○委員 D

そもそも、学校評議員制度からコミュニティ・スクールになったときに小中一貫は1つの大きい柱で、例えば小学校3校が1中に行くときにこの3つの学校を包括したところで、コミュニティ・スクールを考えようというのがスタートだったと思います。小学校と中学校の地域すべてを地域として見ようというのが当初だったと思うので、変わってきているなと思います。

## 5. 報告事項

### (1) 研修会の参加について

### (2) 社会教育推進事業補助金について



### （３）その他

#### ～事務局より説明～

##### ○委員 A

補助金のことですが、申請団体が多いと補助金額は減額になるのでしょうか。

##### ○事務局

今年は枠内になっています。

##### ○委員 D

上限額が２万円で、趣旨は生涯学習の推進ですよね。既存でやっている事業があって、２万円もらえたらいいというのが本音だと思うのです。でも、そのために予算書、事業計画書、報告書、領収書等を出すとなると、これだけのためにするのかと感じると思います。

##### ○委員長

以前、校区単位に出されていた補助金がなくなって、各市町の社会教育推進員は何をしたらいいかわからないという状態が続いていました。ですので、これは、社会教育推進員に自分たちの地域を盛り上げたり、人と人を繋げたりするために頑張っている活動をしてくださいというためのお金なのです。

## ６．閉会（副委員長）

皆さまお忙しいところありがとうございました。

部活動の地域移行とコミュニティ・スクールについては、以前から興味があったのですが、よくわからないという状態でした。

私は、子どもの狂言グループでの活動も行っておりまして、小学生の子どもたちはこれが学校の部活動だったら中学校でも続けていけるのと言っていました。なかなか学校の部活動の指導を引き受ける人材を見つけることは難しいだろうと思いますが、徐々にならでできるのかなと思っています。

私たちの世代には学校に部活動がもっとたくさんありました。今は、生徒数が減ったり担当する先生がいなかったりして部活動の数がどんどん減っています。以前、北条高校になぜ演劇部がないのかと言いに行ったことがあります。もしかすると、他にも部活動にないけど、やりたいことがあると思っている子どもたちがいて、もしかしたら、これは地域移行するといいいことなのかもしれないと思っています。ただ、それを教えてあげる人材がどれだけいるのかが難しいと思います。学校でやる場合のいいところと地域でやる場合のいいところが合わさっていけばいいなと思って今日のお話を聞かせていただきました。

加西市のコミュニティ・スクールは、地域の方を通してうまくいっていると思います。公民館などでいろいろ学習されている方がいらっしゃいますので、そこも含めてお手伝いができる人が増えていくといいなと思います。また、社会教育のなかでは地域活動をされている方がたくさんいらっしゃると思いますので、そういうところにお声がかかって来るようになればいいなと思います。社会教育の中から学校にもお互いに協力できるようになれるような方法を皆様のお力をいただいて考えていければと思いますのでよろしくお願いいたします。

本日はありがとうございました。